

きな変化が予想される。今回の埋め立ての経緯や、その原案について筆者は知らないが、工事途中で県環境部局からの圧力があり、その結果としての現状であると伝え聞いている。なお、福山市加茂町の菱原池には、今でも隔年的なオニバスの発生があるが、1989年以降は池を取り囲む山林が住宅団地に造成されてしまい、景観が大きく変わった。



写真3 1995. 8. 20.
堤寄りの南岸より、オニバスと、それを取り囲むヒシの群落。対岸はハス。

福島県猪苗代湖の ミズスギゴケ群落 星 一 彰 (福島県自然保護協会)

福島県猪苗代湖北東部天神浜に打ちあげられている球形のコケ塊が、1935年天然記念物に指定(国指定)された。これはミズスギゴケ(*Dicranella palustris* f. *submersa*)が、深さ2~3mのやや粘土状になった湖底で波にゆられて塊状になったものであり、別名、毬蘚(マリゴケ)とも呼ばれている。その後しだいに姿を消し、まぼろしの植物とされてきた。

1972年11月湖北西部蟹沢浜に打ちあげられ生育が確認され、その後確認されないできた。

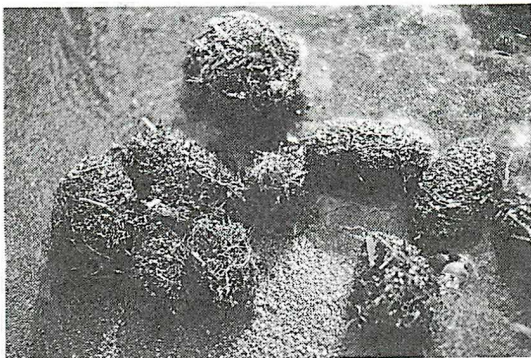


写真1 猪苗代湖のミズスギゴケ群落(1996年4月21日、湖北東部松橋浜にて)

本年4月湖北東部、松橋浜から天神浜にかけて、湖岸の砂浜約300mに、写真のような大小の塊状になったミズスギゴケを確認することができた。その個体数は約2万7千個(福島県教育庁文化課発表)とされている。

なぜ本年度になって、このような群落を確認できたのであろうか。全く不明であるが、本年は特に北西の季節風が強く、低温続きで積雪量が多かったことなどが関係していると考えられる。